様式４

令和６年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和　　6 年　　8 月　　16 日作成

大 学 名：　新潟県立大学

タイトル：私たちの学校は当たり前？―「『みんな』と分かり合える学校」を作るために―

１．本ワークショップに関連する SDGs の目標に〇印をつけてください。

〇印	SDGs17の目標	〇印	SDGs17の目標	〇印	SDGs17の目標
	①貧困をなくそう		⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに		⑬気候変動に具体的な対策を
	②飢餓をゼロに		⑧働きがいも経済成長も		⑭海の豊かさを守ろう
	③すべての人に健康と福祉を		⑨産業と技術革新の基盤をつくろう		⑮陸の豊かさも守ろう
〇	④質の高い教育をみんなに	〇	⑩人や国の不平等をなくそう		⑯平和と公正をすべての人に
	⑤ジェンダー平等を実現しよう		⑪住み続けられるまちづくりを		⑰パートナーシップで目標を達成しよう
	⑥安全な水とトイレを世界中に		⑫つくる責任つかう責任		

２：本ワークショップの要旨

学校には様々なバックグラウンドや個性を持った生徒が集っており、多様な人間の集まる場になっている。しかし、それは社会的なマイノリティを包摂した多様性なのだろうか。今日の公教育は互いのことをわかり合える場なのだろうか。教育、とりわけ学校にあらゆる人々を包摂するために何ができるのか、WS を通じて生徒と考えていく。

３：本ワークショップの目的（目標、実現したいこと）

世界にはどのような人がいるのかを理解する。自分とは違う文化の人と話すとき、どうすればお互いの理解を深められるかについて考える。日本の学校と他国の学校の違いを学ぶ。

４：本トピックをとりあげる理由

学生生活で、世界の文化や学校に触れる機会はほとんど無い。ワークショップを通して文化の違う他人への理解について考えてほしいと思った。

５：活動過程　　（使用時間：　90 分　　参加人数：　34 名　　）

過 程 （所要時間）	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項

導 入　:起 （10 分）	アイスブレイク	仲間探しゲーム ⇒メインファシにお題を出されたら「せーの！」の掛け声で一斉に叫び、同じことを言っている人と一緒に座る	生徒同士、生徒とファシリテーター同士の交流を深め、発言しやすい環境を作る	パワーポイント、	

展開　：承 （30分）	世界が35人の村だったら？	世界が35人の村だとしたらの活動をクラスで行い、世界にはどんな人々がいるのかをワークを通じて理解する	世界にはどのような人々がどれ理解することを目指す。	パワーポイント	予想通りのものであれば、やっぱりというような反応、予想と反するものであれば、驚くことが予想される。
発　展　：転 （40分）	日本の学校教育におけるケーススタディ	(1) マナーカード（班員それぞれがどのように活動中振る舞うかが書かれているカード）を全員に配布し、受け取ったカードに書かれたとおりに振る舞えるようにする。 マナーカード1：いつもお話しするようにふるまってください。マナーカード2：相手のいったこと	自分が知らない文化の人々と話をするときにどのような問題が起きるかを疑似的に体験してもらう。そして、どのように感じたかを考えることで、どうすればいいのかを考えることにつなげる。	パワーポイント、ワークシート、付箋、筆記用具	

		を肯定したいときは首を横に振る。否定したいときは首を縦に振る。マナーカード3:人と話すことは相手の時間を取らせることなので、話したいことはさっさと話して、早く会話を終わらせる。等々 (2) 班のなかで、2人1組をつくり、話をする。話題は自由。3分程度時間を取り、それを3ラウンド行う。 (3) 活動をしてみて、どのようなことを感じたかを考えて、ワークシートに付箋でまとめる。			
		ルール・マナー・習慣などの違い、ギャップや母国で当たり前だと思っていたことや行為が日本の学校で通じなかったことをケー	文化の違い・お互いのことを理解する		

		ススタディで生徒が体験する 感情を生徒同士で共有			
まとめ　：結 （10 分）	ワークショップを通じて考えたことをまとめる。	ワークショップを通じて、様々なバックグラウンドをもっている人と関わることについて考えたことをまとめて、ハンドアウトに記入する。	ワークショップを通じて考えたことを振り返ることで、今後の行動の糧になるようにする。	パワーポイント、ハンドアウト	

６：会場のセッティング（対面の場合のみ）

黒板

パソコン、進行役

机やいすは端に寄せてもらう

７：使用する教材

・パワーポイント
・ポインター
・ベル
・ハンドアウト
・ペン
・筆記用具

８：参考にした資料

・『異文化理解トレーニング－ボーダーレス社会を生きる』、著：八代京子・町恵理子・小池浩子・磯貝友子、三修社、1999 年
・『世界がもし 100 人の村だったら』、再話：池田香代子、対訳：Ｃ,ダグラス・ラミス、積信堂、2001 年
・『FACTFULNESS』、著：ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、

９：その他

派遣校へのお願い（班構成の人数や、事前に作ってもらうかその場で作るかなど）
その他の不明な点があれば、事前打ち合わせで確認させていただきます。